

JW20 / 20H / 30H対応  
ユニラインインターフェース（Hシステム用）  
J2 - HUW 取扱説明書  
V-1.6

本製品を安全に正しくご使用いただくためにこの取扱説明書をよく  
お読みになり、内容を理解された上でご使用ください。  
また本取扱説明書を大切に保管され保守、点検時にご活用ください。

N K E 株式会社

EJ2HUW-800G

## ご注意

- 本書の内容に関しましては将来予告なしに変更することがあります。
- 本書の一部または全部を無断で転載することは禁止されています。
- 本書の内容に関しまして誤りや記載もれなどお気付きの点がございましたら、お手数ですが弊社までお知らせください。

## はじめに

このたびは本システム機器をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。

正しくご使用いただくためにこの取扱説明書をよくお読みください。

また、あわせて弊社作成のテクニカルマニュアルもお読みください。

### 安全にまた正しくお使いいただくために

#### 注意

- 本製品は必ず仕様範囲内でお使いください。仕様は6ページに記載してあります。
- 配線作業を行うときは必ず電源を切ってください。
- 本システム機器と接続する電源はDC24V安定化電源をご使用ください。
- 伝送ライン(D、Gライン)や入出力ラインは高圧線や動力線と離してご使用ください。
- 伝送路1系統につき1本のキャプタイヤケーブルを割り当ててご使用ください。複数の系統を多芯ケーブルでまとめて送信するとクロストークにより機器が誤動作します。
- 誤配線はトラブルの原因となります。接続用端子の信号表示にあわせて接続してください。
- 伝送ラインの総延長は200mです。センサターミナルやパワーターミナルに接続されるセンサやランプ、コイルなどの消費電力が大きい場合電源ラインの電圧降下が大きくなり機器が誤動作することがあります。このような場合には分散配置されたターミナルで24Vとなるよう電源を分散配置してください。
- 本インターフェースに接続できるターミナルは20ユニットまでです。
- 静電気や衝撃などに十分注意してお取り扱いください。
- コネクタピン端子部には触れないでください。触れると腐蝕の原因となり接触不良を起こします。
- 伝送データをコードとして扱われる場合には本システムの伝送方式上次のような問題がありますのでご注意ください。よろしくお願いいたします。

出力の場合、出力ターミナル側では若い番号側から約35uSec毎に出力されてきますので出力ターミナルを介してデータの授受を行う場合、相手方が読み込むタイミングによっては正しいデータを読み込めない場合があります。この場合は、データより後の番号をストロブ信号としてデータの授受を行ってください。

入力の場合、J2-HUW側では1バイト単位でデータを更新していますが、二重照合をバイト単位ではなくビット毎に行っておりますので、厳密にはバイト単位のデータ保証はできません。

- ボード上のトリマー抵抗VR1は絶対に回さないでください。回すと伝送できなくなります。

製品改良のためお断りなく仕様などを変更する場合がありますのでご了承ください。

## 保証について

本製品の保証は日本国内で使用する場合に限りです。

- 保証期間

納入品の保証期間はご注文主のご指定場所に納入後1ヶ年とします。

- 保証範囲

上記保証期間中に本取扱説明書に従った製品使用範囲内の正常な使用状態で故障を生じた場合は、その機器の故障部分の交換または修理を無償で行います。

ただし、次に該当する場合はこの保証の範囲から除外させていただきます。

1. 需要者側の取り扱い不注意、および誤った使用による場合。

- (1) 取扱説明書以外の使用による場合。

- (2) 仕様を越える環境条件で取扱いをされた場合。

2. 故障の原因が納入者以外の事由による場合。

3. 納入者以外の改造または修理による場合。

4. その他、天災、災害等で納入者の責にあらざる場合。

ここでいう保証は納入品単体の保証を意味するもので、納入品の故障により誘発される損害はご容赦いただきます。

- 有償修理

保証期間後の調査および修理は全て有償となります。また保証期間中においても、上記保証範囲外の理由による故障の修理および故障の原因調査（保証範囲の場合を除く）は有償にてお受け致します。修理に関するご依頼はお買い上げの販売店にお申しつけください。

- 部品のご注文、お問い合わせ

製品の故障、部品のご注文、その他お問い合わせの節は、次の事項をお買い上げの販売店まで詳しくご連絡ください。

- (1) 型式

- (2) 製造ロット番号

- (3) 不具合の内容、配線図等

## 目 次

1 特 長 .....	5
2 構 成 .....	5
3 仕 様 .....	6
4 各部の名称について .....	7
5 I/Oリレーの割り付けについて .....	7
6 動作モードの設定について .....	10
7 監視機能について .....	11
7.1 サイジング .....	11
7.2 監視動作 .....	11
7.3 RM - 120によるモニタ .....	12
8 エラーステータスについて .....	12
9 エラーステータスのリセット方法 .....	15
10 LED表示について .....	15
11 接続について .....	15
12 モニタコネクタについて .....	16
13 伝送所要時間について .....	17
14 トラブルシューティング .....	18
15 外形寸法図 .....	19
16 J2 - HUW取扱説明書変更履歴 .....	20

## 1 特 長

シャープ株式会社製プログラマブルコントローラ JW20、JW20H、JW30Hで使用できます。

分岐配線をして断線検知が可能です。

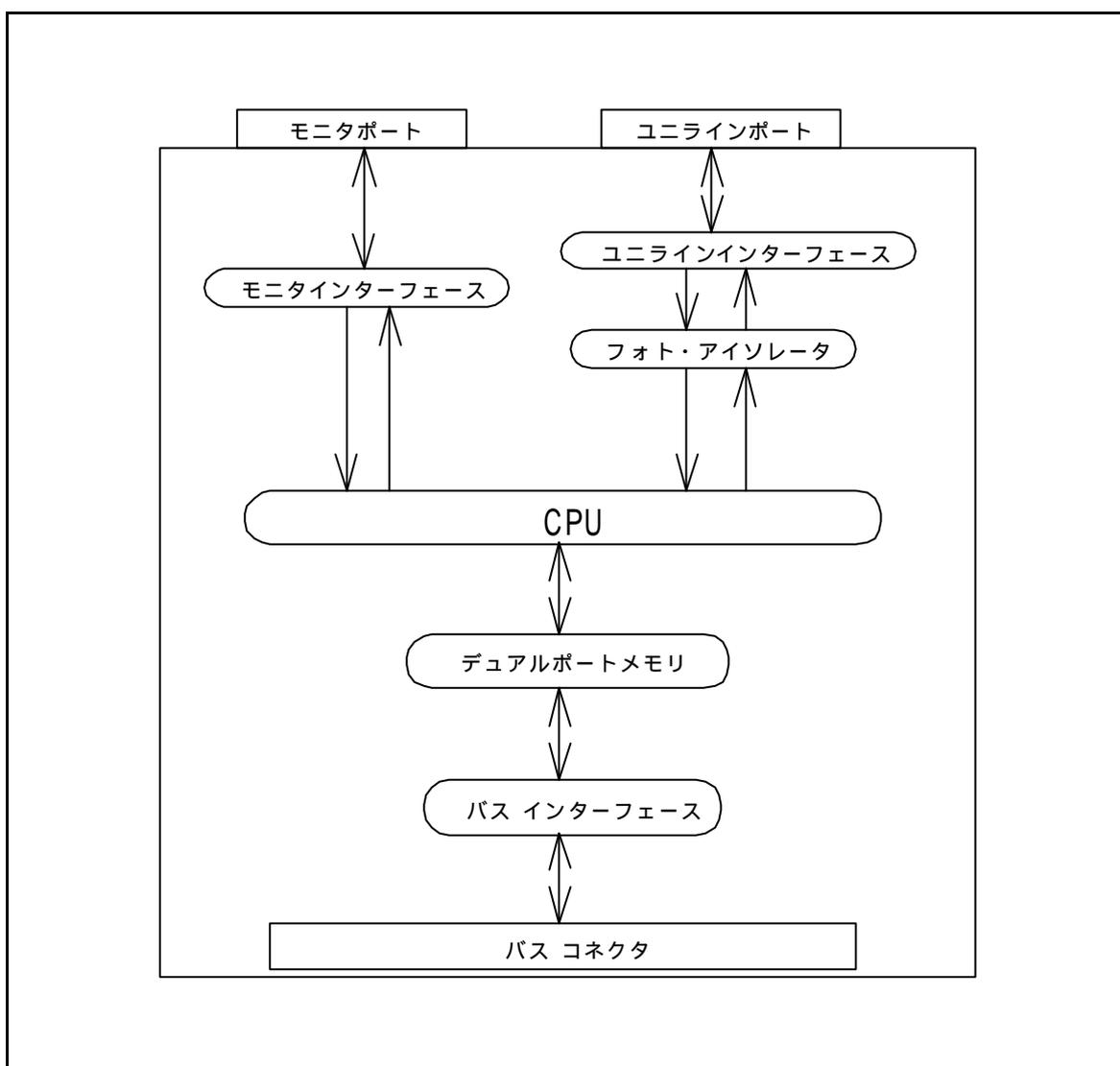
1ユニットで128点の入出力ができます。

入力、出力、入出力混合モードが選択できます。

シリアル伝送のための特別なプログラムは不要です。

ユニラインの豊富なターミナルが使えます。

## 2 構 成



## 3 仕様

## 一般仕様

使用周囲温度	0 ~ + 5 5
保存温度	- 2 0 ~ + 7 5
使用湿度	2 0 % ~ 9 0 % R H (結露なきこと)
保存湿度	5 % ~ 9 5 % R H (結露なきこと)
雰囲気	腐食性ガスや可燃性ガスなきこと

## 性能仕様

占有入出力リレー点数	入出力リレー16点(ダミー) 特殊I/O用リレー128点(アドレスはSW1(ユニット)により設定します)
I/Oの組み合わせ	128点の場合(128/0、112/16、96/32、80/48、64/64、48/80、32/96、16/112、0/128) 64点の場合(64/0、48/16、32/32、16/48、0/64) ロータリーディップスイッチにより入出力モードを選択する
ユニラインポート	1ポート(20アドレスMax.)
伝送方式	同期・多重方式
伝送手順	ユニラインプロトコル
伝送距離	総延長 200m
リフレッシュサイクルタイム	128点 約6.1mS(モニタ接続時6.6mS) 64点 約3.7mS(モニタ接続時4.2mS)
伝送遅れ時間	128点 約6.1~12.2mS(モニタ接続時6.6~13.2mS) 64点 約3.7~7.4mS(モニタ接続時4.2~8.4mS)
電源	+5V 0.13A(RM-120を使用しない場合) 0.30A(RM-120使用時) +24V +15%, -10% リップル 0.5Vpp以下 電流 0.2A(ターミナルと負荷の電流は含まず)
モニタ端子	別売のモニタユニットRM-120によりON/OFF状態のモニタと強制オン・オフが可能
その他	伝送線D-G間、D-P間の短絡検知、保護 伝送線の断線検知 上記異常状態をエラーフラグによりCPUに通知 上記異常状態をLEDにより表示

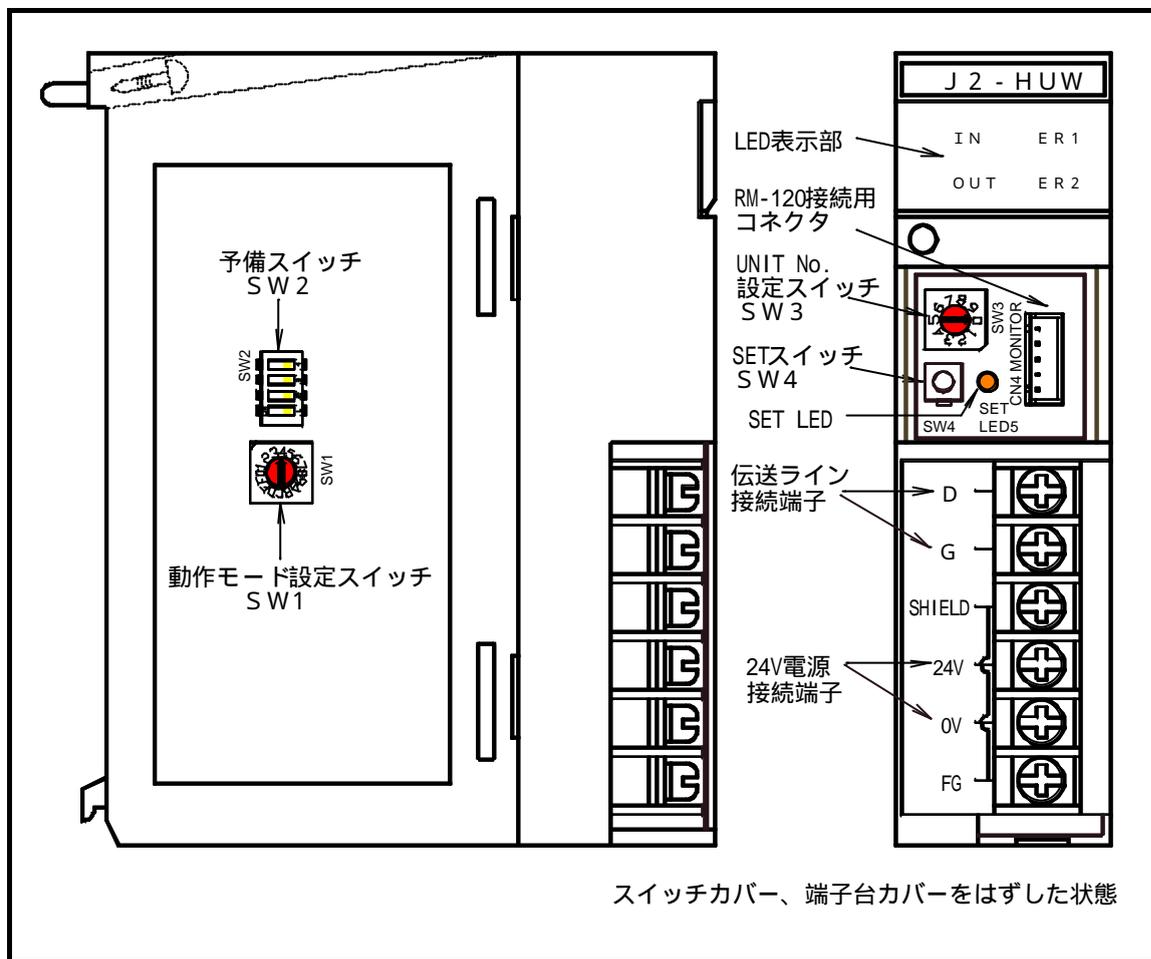
<注1> 120シリーズのターミナルが接続できます。

30シリーズは接続できません。

<注2> +5VはJW20/20HまたはJW30Hの電源ユニットから供給されます。トータルの電源容量が供給能力を越えないようご注意ください。

あわせてシャープ株式会社のJW20HまたはJW30Hの「ユーザーズマニュアル・ハード編」、「プログラミングマニュアルラダー命令編」をご参照ください。

4 各部の名称について



5 I/Oリレーの割り付けについて

入出力リレーがダミーとして16点割り付けられますのでご注意ください。  
 例えば下の図のように、J2-HUWをスロットNo. 0、32点出力ユニットをスロットNo. 1にセットした場合、入出力リレーアドレス コ0000～0001はダミーとして割り付けられ、32点出力ユニットはコ0002からのアドレスになります。

	スロットNo.	0	1	2
JW31PU	JW-22CUH	J2-HUW	JW232S	JW212N
電源ユニット	CPU ユニット	ユニライン インター フェース	32点出力 コ0002～ コ0005	16点入力 コ0006～ コ0007

J2-HUWの入出力は特殊ユニット用リレーエリアを使います。

ユニット 設定スイッチ (SW3) により特殊ユニット用リレーエリアに割り付けてご使用ください。

JW20 / JW20Hの場合 (2000 ~ 3777)

SW3	リレー番号	コードアドレス
0	02000 ~ 02177	コ0200 ~ 0217
1	02200 ~ 02377	コ0220 ~ 0237
2	02400 ~ 02577	コ0240 ~ 0257
3	02600 ~ 02777	コ0260 ~ 0277
4	03000 ~ 03177	コ0300 ~ 0317
5	03200 ~ 03377	コ0320 ~ 0337
6	03400 ~ 03577	コ0340 ~ 0357
7	03600 ~ 03777	コ0360 ~ 0377

JW30Hの場合 (30000 ~ 41777)

SW3	リレー番号	コードアドレス	
ラック0	0	30000 ~ 30177	コ3000 ~ 3017
	1	30200 ~ 30377	コ3020 ~ 3037
	2	30400 ~ 30577	コ3040 ~ 3057
	3	30600 ~ 30777	コ3060 ~ 3077
	4	31000 ~ 31177	コ3100 ~ 3117
	5	31200 ~ 31377	コ3120 ~ 3137
	6	31400 ~ 31577	コ3140 ~ 3157
	7	31600 ~ 31777	コ3160 ~ 3177
ラック1	0	32000 ~ 32177	コ3200 ~ 3217
	1	32200 ~ 32377	コ3220 ~ 3237
	2	32400 ~ 32577	コ3240 ~ 3257
	3	32600 ~ 32777	コ3260 ~ 3277
	4	33000 ~ 33177	コ3300 ~ 3317
	5	33200 ~ 33377	コ3320 ~ 3337
	6	33400 ~ 33577	コ3340 ~ 3357
	7	33600 ~ 33777	コ3360 ~ 3377
ラック2	0	34000 ~ 34177	コ3400 ~ 3417
	1	34200 ~ 34377	コ3420 ~ 3437
	2	34400 ~ 34577	コ3440 ~ 3457
	3	34600 ~ 34777	コ3460 ~ 3477
	4	35000 ~ 35177	コ3500 ~ 3517
	5	35200 ~ 35377	コ3520 ~ 3537
	6	35400 ~ 35577	コ3540 ~ 3557
	7	35600 ~ 35777	コ3560 ~ 3577
ラック3	0	36000 ~ 36177	コ3600 ~ 3617
	1	36200 ~ 36377	コ3620 ~ 3637
	2	36400 ~ 36577	コ3640 ~ 3657
	3	36600 ~ 36777	コ3660 ~ 3677
	4	37000 ~ 37177	コ3700 ~ 3717

	5	37200 ~ 37377	□3720 ~ 3737
	6	37400 ~ 37577	□3740 ~ 3757
	7	37600 ~ 37777	□3760 ~ 3777
リモートI/O 子局	0	40000 ~ 40177	□4000 ~ 4017
	1	40200 ~ 40377	□4020 ~ 4037
	2	40400 ~ 40577	□4040 ~ 4057
	3	40600 ~ 40777	□4060 ~ 4077
	4	41000 ~ 41177	□4100 ~ 4117
	5	41200 ~ 41377	□4120 ~ 4137
	6	41400 ~ 41577	□4140 ~ 4157
	7	41600 ~ 41777	□4160 ~ 4177

以下JW20/20Hの場合で説明します。

例えばユニット 設定スイッチ (SW3) を0に設定した場合、ユニラインのアドレス番号とPLC側のアドレスとの対応は次のようになります。

PLC側のアドレス	bit No. (1ワード)							
	7	6	5	4	3	2	1	0
□0200	7	6	5	4	3	2	1	0
□0201	15	14	13	12	11	10	9	8
□0202	23	22	21	20	19	18	17	16
□0203	31	30	29	28	27	26	25	24
□0204	39	38	37	36	35	34	33	32
□0205	47	46	45	44	43	42	41	40
□0206	55	54	53	52	51	50	49	48
□0207	63	62	61	60	59	58	57	56
□0210	71	70	69	68	67	66	65	64
□0211	79	78	77	76	75	74	73	72
□0212	87	86	85	84	83	82	81	80
□0213	95	94	93	92	91	90	89	88
□0214	103	102	101	100	99	98	97	96
□0215	111	110	109	108	107	106	105	104
□0216	119	118	117	116	115	114	113	112
□0217	127	126	125	124	123	122	121	120

## 6 動作モードの設定について

動作モード設定スイッチ(SW1)により入出力点数を設定します。

入出力混合の場合は入力の方が先になります。

動作モード設定スイッチ(SW1)を 0 ~ 8 に設定すると入出力合計 128 点で動作します。

動作モード設定スイッチ(SW1)を 9 ~ E に設定すると入出力合計 64 点で動作します。

Fは使用しないでください。テスト用となっています。

伝送遅れ時間を少なくしたい場合は64点モードでご使用ください。

動作モード設定スイッチ (SW1)の設定値	動作モード	ユニラインアドレス	
		入力	出力
0	128点入力	0~127	-
1	112点入力 / 16点出力	0~111	112~127
2	96点入力 / 32点出力	0~95	96~127
3	80点入力 / 48点出力	0~79	80~127
4	64点入力 / 64点出力	0~63	64~127
5	48点入力 / 80点出力	0~47	48~127
6	32点入力 / 96点出力	0~31	32~127
7	16点入力 / 112点出力	0~15	16~127
8	128点出力		0~127
9	64点入力	0~63	-
A	48点入力 / 16点出力	0~47	48~63
B	32点入力 / 32点出力	0~31	32~63
C	16点入力 / 48点出力	0~15	16~63
D	64点出力	-	0~63
E	64点出力	-	0~63
F	使用しないでください		

例えば動作モード設定スイッチを4に設定した場合には0~63の範囲に入力ターミナル、63~127の範囲に出力ターミナルのアドレスをセットしてください。

<例1> 動作モード設定スイッチを2(96点入力/32点出力)に設定した場合

ユニット 設定スイッチ(SW3)を0に設定した場合、アドレス C0200~0213が入力エリア、  
アドレス C0214~0217が出力エリアとなります。

0                      入力エリア                      95 | 96                      出力エリア | 127                      ← ユニラインアドレス

この場合入力ターミナルのアドレスは0~95の範囲に、出力ターミナルは96~127の範囲にアドレスを設定してお使いください。

<例2> 動作モード設定スイッチをB（32点入力 / 32点出力）に設定した場合

ユニット 設定スイッチ (SW3)を0に設定した場合、アドレス C0200~ 0203が入力エリア、アドレス C0204~ 0207が出力エリアとなります。

0 入力エリア 31 | 32 出力エリア 63 ← ユニラインアドレス

この場合入力ターミナルのアドレスは0～31の範囲に、出力ターミナルは32～63の範囲にアドレスを設定してお使いください。

## 7 監視機能について

### 概要

HシステムのターミナルまたはエンドユニットED-H2は固有のID番号（識別番号、以下ID）を持ちJ2-HUWから送られたIDに対し、そのIDをもつターミナルまたはエンドユニットが応答を返すことにより断線検知とターミナルの存在確認をしています。

これにより従来は不可能であった分岐配線を行った場合の断線検知が可能になっています。応答機能のない従来からのターミナルを使う場合にも分岐配線一系統に1台ED-H2をつけることにより断線検知が可能となります。

J2-HUWはサイジング操作（後述）によりその時接続されているターミナルのIDをEEPROM（不揮発性メモリ）に記憶します。この情報は電源を切っても記憶されています。次に登録されたIDを順次送り出しそれにたいする応答が無ければ断線としてER2.LEDにより表示します。

またモニタユニットRM-120を接続することにより異常のあったターミナルのID（=アドレス）を知ることができます。

### 7.1 サイジング

接続されているターミナルのIDをJ2-HUWのEEPROMに記憶させることをサイジングと呼びます。

#### サイジング手順

- 1ターミナルおよびエンドユニットED-H2が全て正常に動作していることを確認してください。
- 2SETスイッチをSET LED（橙色）が点灯するまで（約3秒間）押ししてください。このときモニタユニットRM-120は接続しないでください。
- 3SET LEDが数秒間点灯して消えればIDの記憶が完了しています。

SETスイッチはRM-120が接続されている場合といない場合で働きが異なります。

RM-120なし	約3秒間押しすることによりサイジング動作をさせます
RM-120あり	押しごとにIDとI/Oのモニタ表示の切替え

### 7.2 監視動作

登録されたIDを順次送り出しそれに対する応答が無ければ断線としてER2.LEDにより表示します。

またエラーフラグのBit 3を“1”にします。

この異常情報は電源を切るかエラーリセットするまで保持しています。（8エラーステータスについての項を参照してください）

### 7.3 RM - 120によるモニタ

#### 1) 記憶しているIDの表示

RM - 120を接続しSETスイッチを押してSET LEDを点灯させてください。  
このとき点灯しているLEDの番号が記憶されているID (=アドレス)です。  
もう一度SETスイッチを押すとSET LEDが消えI/Oのモニタ状態になります。

SET LED	RM - 120の表示
点灯	IDの表示
消灯	I/Oの状態の表示

#### 2) 異常IDの表示

IDを表示している状態で点滅しているLEDがあればその番号のIDが断線など異常があった箇所になります。この異常情報は電源を切るまで保持しています。

RM - 120は64個のLEDしかありませんがスイッチ切り替えにより0 ~ 255をモニタします。

表示範囲	64~127スイッチ	“A”スイッチ
0 ~ 63	オフ	オフ
64 ~ 127	オン	オフ
128 ~ 191	オフ	オン
192 ~ 255	オン	オン

“A”スイッチをオンにした場合はRM - 120に表記されている番号に128を足したIDと考えてください。

## 注意

- サイジング操作は必ず行ってください。  
その時接続されている全てのターミナルとエンドユニットED - H2が通電状態で正常動作をしていることを確認してください。  
サイジングが正しく行われないと監視機能が有効にならず断線検知ができません。
- ターミナルを追加したり取り除いた場合、アドレスを変更した場合には必ずサイジング操作を行ってください。
- エンドユニットED - 120は接続しないでください。監視機能が正しく働きません。

## 8 エラーステータスについて

特殊I/O専用F命令Aブロックがステータスレジスタになっており、エラーフラグとSW1、SW2の設定値、異常IDの個数、異常IDの値がセーブされています。

このアドレスは全ての動作モードにおいて共通です。

エラーフラグにより伝送ラインの状態を知ることができます。

このエラー状態はER2 LEDによっても表示されます。

0300H	エラーフラグ
0301H	ディップスイッチSW1、2の設定値
0302H	異常IDの個数 0 ~ 40
0303H ~ 032AH	異常IDの値

0300H

ビット 0 予 備

ビット 1 D - G間の短絡

ビット 2 D - 24V間が短絡しているか24Vが供給されていない。

ビット 3 D、Gラインの断線。またはターミナルの故障か24V電源が供給されていない。

ビット 4 ~ 7 予 備

Bit 3は電源を切るかエラーリセット（後述）まで保持されています。

Bit 1と2はエラー状態が解除されると"0"になります。保持はしません。

0301H

ビット 0 動作モード設定スイッチSW1の"1"（最下位ビット）

ビット 1 動作モード設定スイッチSW1の"2"

ビット 2 動作モード設定スイッチSW1の"4"

ビット 3 動作モード設定スイッチSW1の"8"（最上位ビット）

ビット 4 予備スイッチSW2の"1"（最下位ビット）

ビット 5 予備スイッチSW2の"2"

ビット 6 予備スイッチSW2の"4"

ビット 7 予備スイッチSW2の"8"（最上位ビット）

ステータスレジスタの読み出しの例

エラーフラグを読みだしコ1400~コ1452に格納する例を示します。

特殊I/Oからの読みだし命令 **F - 85 PRRD** を使います。



ニーモニック表示の場合

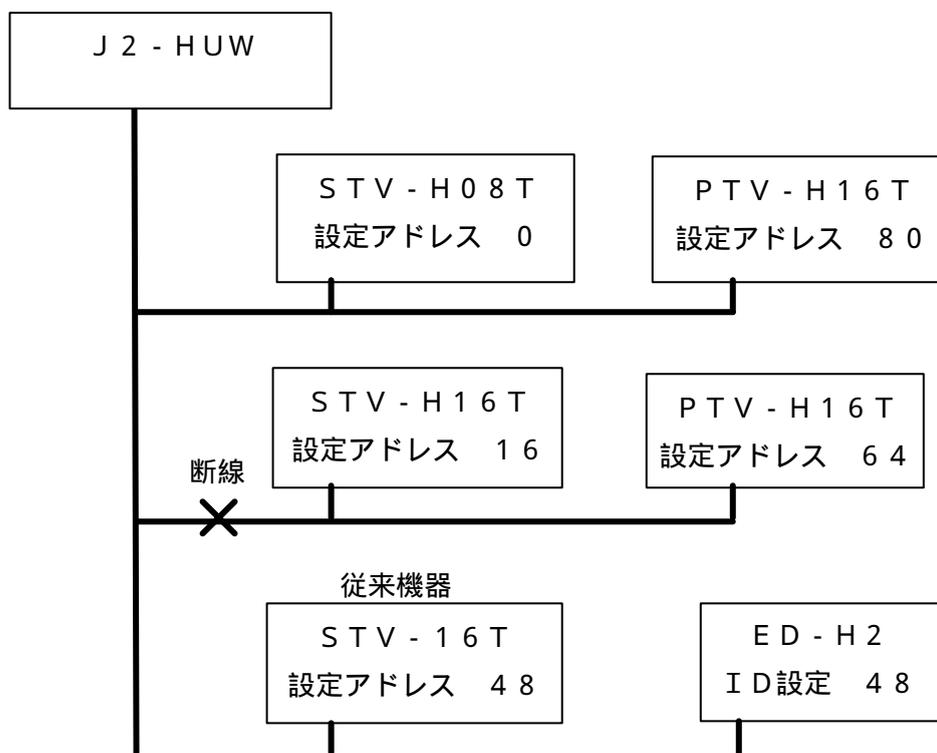
```

F - 47
STR NOT      0 7 3 6 6
F - 85      PRRD
            OCT 0 5 3
            SW  0 , 0
            コ1400
F - 48
    
```

アドレス	内 容
コ1400	エラーフラグ
コ1401	ディップスイッチSW1、2の設定値
コ1402	異常IDの個数 0 ~ 40
コ1403	異常ID1
コ1404	異常ID2

コ1405	異常ID3
	.
	.
コ1451	異常ID39
コ1452	異常ID40

例 アドレス16と64に設定されているターミナルが接続されている箇所が断線した場合



従来機器を使用する場合はHシステム用エンドユニットED-H2を接続してください。  
従来機器の場合はターミナル側の24V電源が供給されていなくてもエラーになりません。

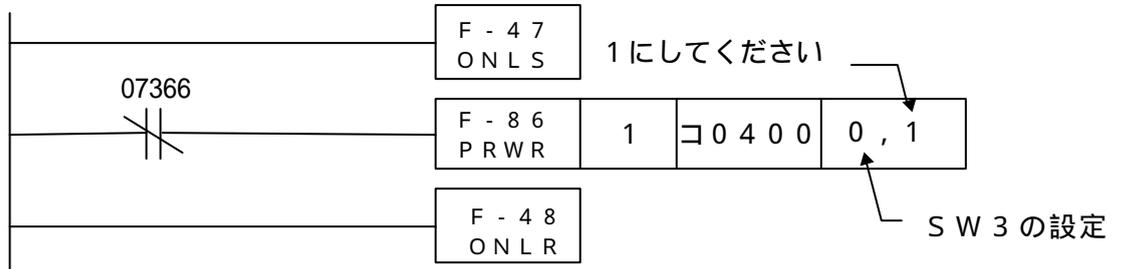
エラーステータスの内容は次のようになります。

アドレス	内 容
コ1400	08H (エラーフラグ)
コ1401	ディップスイッチSW1、2の設定値
コ1402	02H (異常IDの個数)
コ1403	10H (10進数で16)
コ1404	40H (10進数で64)
コ1405	
	.
	.
コ1451	
コ1452	

この例の場合異常アドレスの数は2個ですのでアドレスコ1405～コ1452までのデータは無視してください。

### 9 エラーステータスのリセット方法

特殊I/Oへの書き込み命令 **F - 86 PRWR** によりアドレスコ0400に“1”以外のデータを書いてから“1”を書き込んでください。(補助リレーコ0400を使用した場合であり他のリレーを使う場合はコ0400を置き換えてください。)



断線などの異常が解消していれば断線フラグが“0”、異常アドレスの数も“0”にリセットされます。

異常状態が解消されていなければ再び異常フラグと異常アドレスの数、異常アドレスがセットされます。

電源再投入によってもクリアされます。

### 10 LED表示について

- ER1 (赤) - J2-HUWのハードウェアに異常がある場合点灯します。
- IN (緑) } 伝送点数に応じて緑と黄色が点滅します。64点入力/64点出力ならば
- OUT (黄) } 緑が4回・黄色が4回点滅して休みこれを繰り返します。
- ER2 (赤) - 本システムの伝送ラインに異常がある場合点灯します。

点灯状態	主な原因
遅い点滅	D - G間短絡。
点灯	D、Gラインの断線。 またはターミナルの故障か24V電源が供給されていない。
速い点滅	D - 24V間短絡。または24Vが供給されていない。

(速い点滅とはINまたはOUTの点滅と同じ周期の点滅を言います)

SET LED (橙) - SETスイッチのオン/オフにより点灯します。

### 11 接続について

D □ 伝送線です。

G □

SHIELD 内部で下記のFGと接続されています。

24V DC 24Vの安定化電源を接続してください。

0V 負荷とターミナルに必要な電流 + 0.2A以上の容量のもの

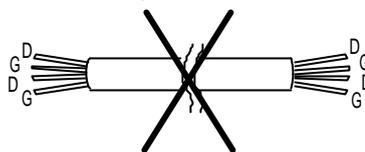
FG フレームグランド ノイズの状況により接地した方がよい場合とそうでない場合があります。接地する場合は1点接地をお願いします。

24V、0V、D、Gはそれぞれターミナルユニットの24V、0V、D、Gと接続してください。(各ユニットの取扱説明書を参照してください。)

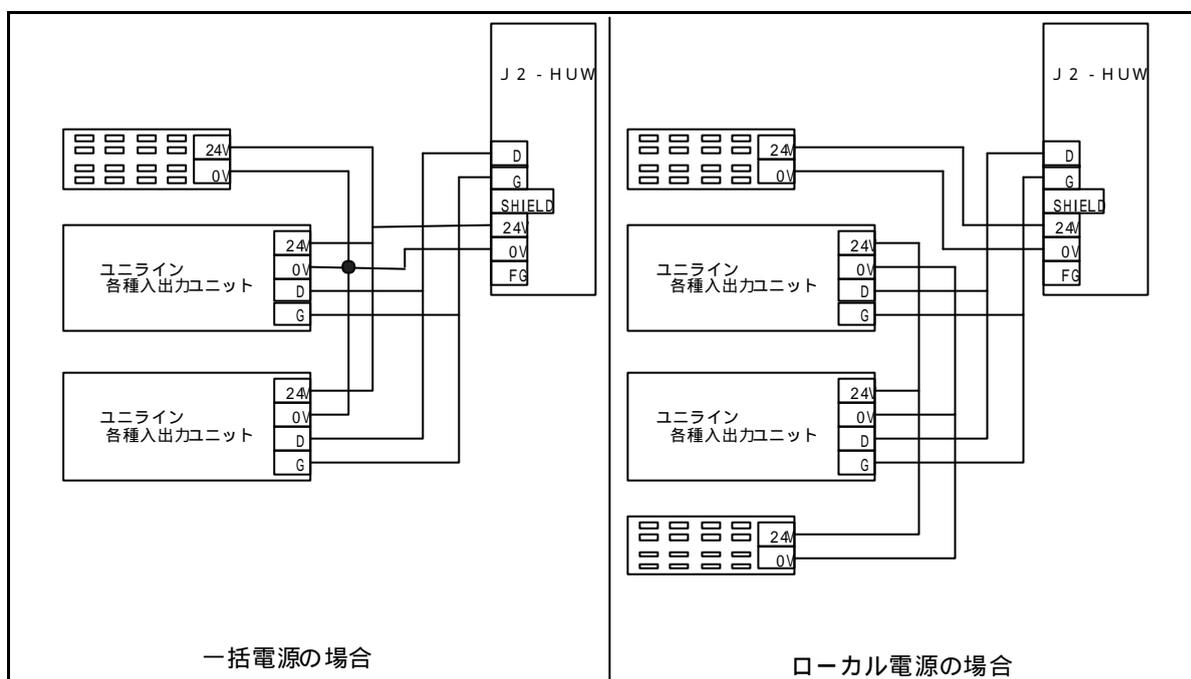
## ⚠ 注意

- 多芯ケーブルで複数の伝送線（D、G）をまとめて送らないでください。まとめて送るとクロストークにより機器が誤動作します。

1ポートに1本の伝送線（0.5mm<sup>2</sup>以上）としてください。



- ケーブルによる電圧降下にご注意ください。電圧降下により機器が誤動作します。電圧降下が大きい場合はターミナル側で電源を供給してください。（ローカル電源）
- コネクタ端子に接続する線は半田あげしないでください。線がゆるみ接触不良の原因となります。



一括電源の場合ボード内を通じて供給することになるため、ターミナルに供給する24V電源はセンサや電磁弁など負荷用を含め5 Aまでとしてください。

## 12 モニタコネクタについて

別売のモニタユニットRM-120を接続することによってオン・オフ状態のモニタができます。

これによりCPUを介さずに配線チェックができます。またプログラムのデバッグも効率よく行うことが可能です。

強制オン・オフはCPUがプログラムモードでのみ可能です。



## 14 トラブルシューティング

まず次のことを確認してください。

- (1) すべての機器のPOWERランプが点灯していること。
- (2) すべての機器のSENDランプが点滅していること。
- (3) 各機器の電源電圧が21.6～27.6Vの範囲にあること。
- (4) 配線、接続が確実であること。
- (5) アドレス設定が正確であること、重複していないこと。

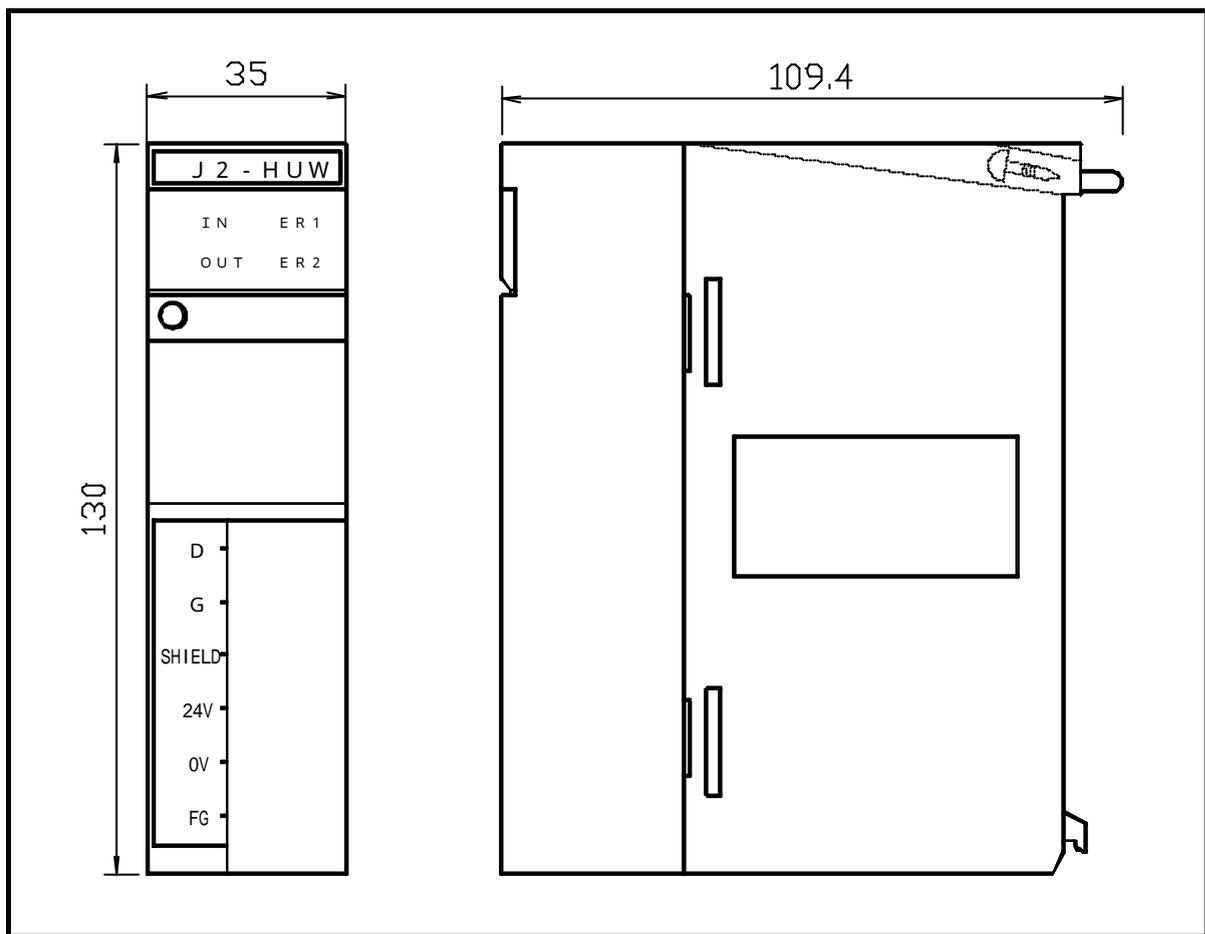
あわせて弊社作成のテクニカルマニュアルをご覧ください。

### 症状別チェックリスト

症 状	チェック項目
データの入出力ができない	<p><b>J 2 - H U W側</b></p> <p>動作モード設定スイッチ(SW1)によるI/O割り付けが正しく設定されているか I/O割り付けで設定したI/O番号とソフトウェアで指定するI/O番号が一致しているか</p> <p>他のユニットとユニット が重複していないか</p> <p>ユニット 設定スイッチSW3によるリレーエリアの設定とソフトウェアで指定するリレー番号が一致しているか</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p><b>ターミナル側</b></p> <p>ターミナルに電源が供給されているか</p> <p>ターミナルのアドレスは正しく設定されているか</p> <p>入力ターミナルと出力ターミナルが同じアドレスに設定されていないか</p>
ER2.LED(赤)が点灯	<p>D-Gラインが断線していないか</p> <p>サイジングを正しく行ったか</p> <p>端子台のビスがゆるんでいないか</p>
ER2.LED(赤)がゆっくり点滅	<p>D-Gラインが短絡していないか</p>
ER2.LED(赤)が速く点滅	<p>J2-HUWに供給しているDC24V電源の電圧が正常か</p> <p>Dと24Vが接触していないか</p>
伝送異常	<p>予備スイッチ(SW2)の設定があっているか</p> <p>[ スイッチNO.1～4 全てOFF(出荷時設定)であること ]</p> <p style="text-align: center;"><b>このスイッチは、ユーザ側で変更しないでください。</b></p>

J2-HUW

15 外形寸法図



## 16 J2 - HUW取扱説明書変更履歴

バージョン	日付	変更内容
EJ2HUW-800A (V-1.0)	1996. 7.12	リリース
EJ2HUW-800B (V-1.1)	1996. 7.24	10ページ アドレス コ0200～0215が入力エリア、アドレス コ0216～0217が出力エリアとなります。  アドレス コ0200～0213が入力エリア、アドレス コ0214～0217が出力エリアとなります。
EJ2HUW-800C (V-1.2)	1996. 9. 5	13ページ SW1の設定値 SW3の設定値 15ページ SW1の設定値 SW3の設定値 17ページ 「ユニラインポートは脱着の容易なコネクタ端子になっています。」 削除
EJ2HUW-800D (V-1.3)	1998.4.23	2ページ 1 Km 200m
EJ2HUW-800E (V-1.4)	2004.7.7	名称変更 2ページ「本システムのDC24V・・・」削除。 18ページ「D-ラインを逆接していないか」削除。
EJ2HUW-800F (V-1.5)	2004.11.4	8～11ページ I/Oルーの割付け例など変更。 18ページ チェック項目に伝送異常時追加。
EJ2HUW-800G (V-1.6)	2006.4.6	7～9ページ I/Oルーの割付け例など変更。

## N K E 株式会社

---

本 社 工 場 〒617-0828 京都府長岡京市馬場函所27	TEL 075-955-0071 (代) FAX 075-955-1063
東 京 営 業 所 〒110-0016 東京都台東区台東2丁目12-2(不二DICビル)	TEL 03-3833-5330 (代) FAX 03-3833-5350
名 古 屋 営 業 所 〒460-0026 名古屋市中区伊勢山2丁目13-22(ITOHビル)	TEL 052-322-3481 (代) FAX 052-322-3483
大 阪 営 業 所 〒550-0013 大阪市西区新町1丁目2-13(新町ビル)	TEL 06-538-7136 (代) FAX 06-538-7138
京 都 営 業 所 〒612-8487 京都市伏見区羽束師菱川町336-1	TEL 075-924-3293 (代) FAX 075-924-3290
伏 見 工 場 〒612-8487 京都市伏見区羽束師菱川町336-1	TEL 075-931-2731 (代) FAX 075-934-8746

---